

## 次年度の検討方針（案）

### 1 今年度のまとめ

- これまで行ってきた資料収集結果、現地調査結果、地域懇談会を通じた漁業者の意見等から、三河湾の歴史的な変遷を振り返った上で物質循環の課題を整理し、その結果から三河湾をヘルシーにするために必要な対策を提示した。
- 実証試験では、干潟・浅場と局所的に閉鎖的な地形の場所における物質循環の違いを想定することによって、今後、それぞれの場において想定されるさらなる対策（案）を導き出した。
- 各対策効果の検証結果は、低い結果となった。一方、参考で実施した1960年代の地形を再現した検証結果では、貧酸素水の発生が大きく改善される結果が得られた。三河湾のヘルシーを取り戻す条件として、沿岸の地形条件及び栄養条件（特に地形条件）が影響することが示唆された。

### 2 今年度の課題

- 実証試験では、三河湾において円滑な物質循環が妨げられている象徴である貧酸素水が助長される時期に実施することができなかった。上記のとおり、実証試験の結果から、今後の対策につながる仮説を得ることができているため、夏季の調査を追加実施し、その仮説について検証し、具体的な対策につなげたい。
- モデルを用いた効果の検証結果では、想定よりも対策による効果が低い結果となった。この要因の1つとして、アマモ場の過小評価が挙げられる。現状のモデルでは、アマモそのものが栄養塩類を取り込むことによる水質浄化機能のみが評価されているが、本来アマモ場が持っている機能としては、生物が成育する場としての機能が大きいことが想定される。三河湾のアマモ場が持っている成育場としての機能がある程度考慮した上で、対策の効果を検証したい。

### 3 次年度の検討方針（案）

次年度の検討の流れは次図に示すとおりである。

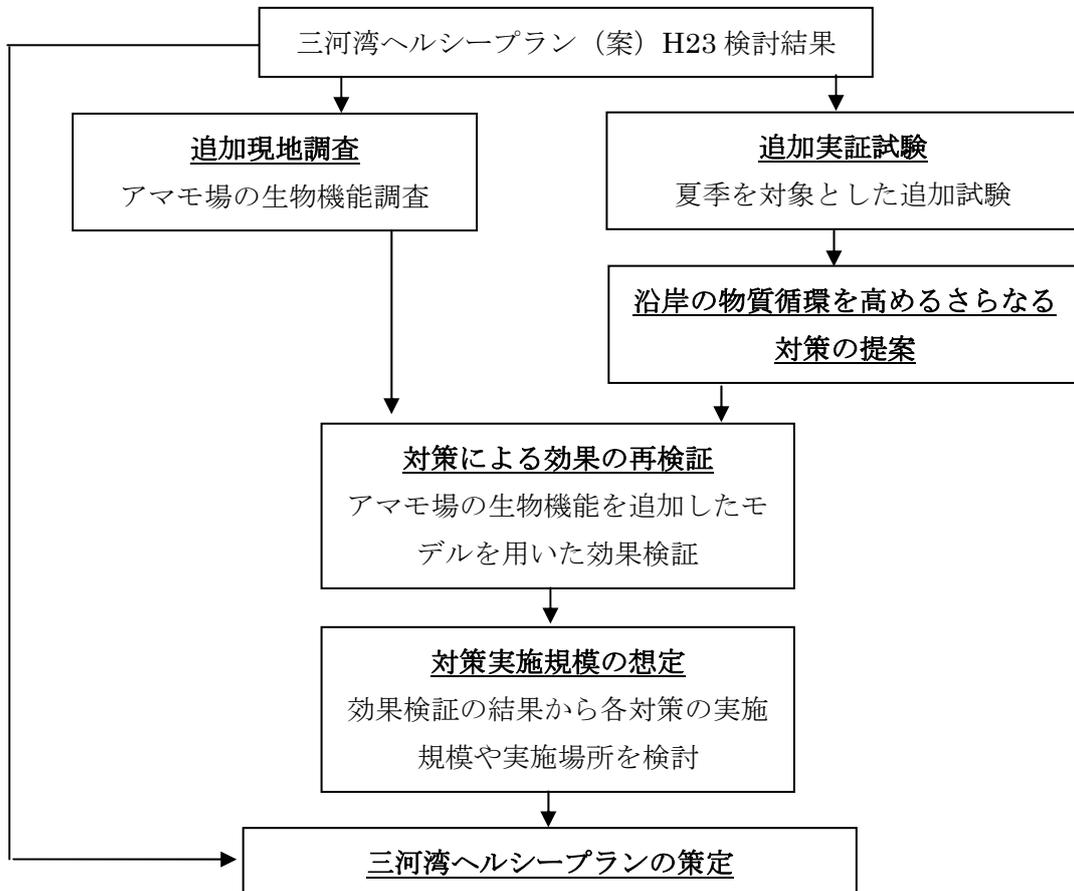


図 検討の流れ

#### ① 夏季を対象とした追加実証試験（浮遊生態系構造変化検証試験）

- 貧酸素水が助長される夏季（8月）を対象に、干潟・浅場に場所を限定した同様の実証試験を実施する。
- なお、その際に検討対象地区として、今年度実施した湾奥の豊川河口部に加えて、矢作川河口部も追加する。

#### ② アマモ場の生物機能調査

- アマモ場における生物調査を実施し、アマモ場における生物機能を把握する。
- 時期はアマモが繁茂する春季とし、湾内のアマモ場を対象として、どのような生物の生息がみられるかを潜水等で確認する。

時期：春季～夏季

場所：三河湾内のアマモ場（3カ所程度）

方法：ダイバーによる目視観察（種類と概ねの数確認）、葉上動物・底生生物の種類、  
個体数、湿重量の確認

**③ 新たな対策の提案と対策による効果の再検証**

以上を踏まえて、アマモ場の機能評価を見直しつつ、追加の実証試験から想定される  
対策も踏まえた効果を再検証する。

また、再検証した結果から、対策の実施規模、実施場所等について検討する。

**④ 三河湾ヘルシープラン策定**

以上の結果を前年度以前の成果とともにとりまとめて、三河湾ヘルシープランを  
策定する。